

ビジネス山柳

妻いつも 亭主休みに パート出る
 (さいたま市・やっかみ男)
 和平秩序安定のための知恵

値上りのラーメン ネクタイにも食わせ
 (東京都・アナログ婆)
 まだクールビズじゃなかったのね

『《水車屋の美しい娘》シューベルトとミュラーと浄化の調べ』 梅津時比古著



著者は、桐朋学園大学学長を務めた音楽ジャーナリスト。「冬の旅」などと並ぶシューベルトの3大歌曲集『美しい水車小屋の娘』(詩・ミュラー)のおかたい解説書、と思つて読むと、良い意味で裏切られる。内容は刺激的で、音楽に興味が無い読者にとつても知的好奇心をそられるだろう。

日本人にはなじみが薄い「水車屋」という商売。簡単に言えば、川の水流の力

セックスを連想

で穀類の粉を挽く製粉業なのだが、日本のアニメで描かれるような牧歌的なイメージを想像していたら、これがとんでもない。ドイツなどでは古来、職業「差別」の対象であり、悪魔や幽霊が好む棲家としてもおそれられたという。そんな「水車屋の娘」が「まっとう」なはずがない。水車＝エロティックなイメージ、もっといえば「女性」そのものの象徴とされ、水車屋の娘(妻)はセックスや不倫・姦通を連想させる、というからオドロキではないか。欧州文化や恐るべし。目からウロコの1冊。

春秋社・2420円(税込)

『相続専門の税理士、父の相続を担当する』 清田幸弘著



相続税の申告を6000件、相談を2万2000件超担当した経験豊富な税理士が初めて手掛けた案件——それが自分の父親の相続だった。父に税金ばかりかかる真山の土地の処分を了解してもらうのに3年、整理に2年、売却に5年。遺言を書いてもらうのも難航するなど、プロでも苦戦する相続の現実が描かれる。一方で節税策を駆使して相続税を3割減らした具体的な内容も明らかにす

プロでも苦戦の現実

令和2年の死亡者数は137万人。そのうち相続税の手続きをしたのは12万人で右肩上がり。相続トラブルも増えている。本書を読むと相続が決してひとごとではなく、身近なものである事実に気づかされる。そして訪れた父の死。「親が亡くなった後では相続対策はできない」「人はいつか死ぬ。でもその『いつか』は誰にもわからない」と言葉に実感がこもる。ドキュメントとしてもノウハウとしても読み応えのある1冊だ。

あさ出版・1650円(税込)

『張赫宙 日本語文学選集』 南富鎮・白川豊編



戦後77年、まだまだ知られていないことがある。その一つが著者の存在だ。かつては魯迅と相並ぶアジアを代表する作家と称され、日本植民地期に活躍した代表的な朝鮮人日本語作家として知られていた。植民地統治下における朝鮮農民の貧困と惨状を告発する作品や植民地期を生きた多様な人間群像を自然主義リアリズムの文体で巧みに描き出した。在日日本文学の嚆矢(こうし)でもあり、

世界的作家の珠玉文学

いま「世界文学」の先駆けとして再び注目を浴びている。代表作「仁王洞時代」をはじめ、また単行本未収録の秀作、「十六夜に」「一日」「墓参りに行く男」「山男」「アン・ヘエラ」「狂女点描」「月姫と僕」「優秀人生」「路地」「橋の上にて」、他に「特殊な立場」を含むエッセー8編を収録。本書によって、ようやくはじめて張赫宙文学の全容が明らかになる。

忘れられた世界的作家の珠玉文学選。

作品社・3960円(税込)

読者のために ★はがきで★100—8160タカマガビジネス山柳編集部★住所、氏名(雅号)係★職業、年齢、電話番号を明記★掲載作品には薄謝★月～金曜掲載。どしどしご応募ください。